

事務事業名	《H24新規》南プスーフティネット協働事業				所属部局	総務部		単位番号	2012- 900023				
	☐ 実施計画事業				所属課室	危機管理室		課長名	手塚 千広				
					所属担当			担当者名	山口 一樹				
基本政策	基本計画体系	I	情報と連携の都市づくり			予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策		06	安全な環境づくり			事業区分	01	一般	09	01	05	020	12
施策		08	防災体制の充実										
事業期間	☒ 単年度のみ ☐ 単年度繰返（開始年度 年度） ☐ 期間限定複数年度（ 年度）					法令根拠							
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 子育て支援の場を利用し、平常時からコミュニティ、災害時の自助、災害時の共助、連携を体験学習し「防災力」を高めていく。					事業費の主な内訳（ 24年度 決算見込）							
						項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
						賃金		120					
						報償費(講師謝金)		86					
						需用費(消耗品)		120					
						需用費(印刷製本費)		300					
						使用料及び賃借料		10		計		636	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	防災サロン、サバイバルキャンプ、防災安全センター体験
25年度活動予定	防災サロン、サバイバルキャンプ、防災安全センター体験
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
子育てファミリー	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
地域コミュニティの重要性を学習し、地域の安全網に対して考えるきっかけにする。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
災害時の自助、災害後の共助、連携を体験学習することにより「防災力」を高める。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
防災サロン開催数	回
体験学習開催数	回
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
子育てファミリー	組
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
学習回数	回
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
子育てファミリー	組

(2) 事業費・指標の推移			単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円								
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円		650	300	300				
	事業費計 (A)			千円	0	650	300	300	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1				
		延べ業務時間	時間		30	30	30				
		人件費計 (B)	千円	0	119	119	119	0	0	0	0
	(A)+(B)			千円	0	769	419	419	0	0	0
活動指標		アイウ	回		6.0 4.0	4.0 4.0	4.0 4.0				
対象指標		アイウ	組		30.0	30.0	30.0				
成果指標		アイウ	回		10.0	10.0	10.0				
上位成果指標		アイウ	組		30.0	30.0	30.0				

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	子育て支援の場を利用して平常時からコミュニティ、災害時の自助、災害後の共助、連携を体験学習を通じて学び、「防災力」を高める。平成24年度から実施した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	サバイバルキャンプや防災センターを利用した災害体験学習を通じて子育てファミリーへの防災に対する認識を深める。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	市民の義務としての防災訓練への参加が難しい乳幼児がいる子育て家庭が参加しやすい環境を整えて欲しいと要望があった。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	全10回講習会を行うが、「あんふあんねっと」と講習内容を検討し、参加者が必要と思う内容や開催時期等を適切に把握しながら事業を進めている。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	防災学習会 7回 避難所生活体験 2回 防災安全センター体験及び見学 1回 模擬体験や参加者とのコミュニケーションに力を入れ事業を行った。自主防災会長との連携の重要性も認識して

事務事業名	《H24新規》南プスーフティネット協働事業	所属部	総務部	所属課	危機管理室
-------	-----------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 本事業を実施している「あんふあんねつ」は乳幼児を持つ地域交流の少ない世帯を対象にしている。市から防災や減災について伝えにくい世代であるため、本事業を実施する意味は大きい。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 地域交流や防災についての関心が少ない世代に、災害時の自助や共助を伝える有効な手立てなので今後も協働して事業を継続していく必要がある。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 適切である ⇒【理由↓】 今後、「あんふあんねつ」に自立して事業を継続させるために、2～3年継続して事業を協働する事で参加者の増加やノウハウを蓄積する事が出来る。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 対象世帯の特化や参加者の募集方法、実施内容を今年度の結果を元に、検討する事である程度向上することが見込まれる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 地域交流や防災についての関心が少ない世代に、防災を伝える機会が減少する。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 今後、2～3年継続して事業を協働する事でノウハウが蓄積でき、自立が見込まれる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業内容を再確認し、必要な予算のみ継続することで事業費の削減が可能。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業実施に関わっている職員については、最低限の時間内で事業を実施しており削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 子育て世代の防災に対する事業なので、適正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業を実施している「あんふあんねつ」は乳幼児を持つ地域交流の少ない世帯を対象にしている。市から防災や減災について伝えにくい世代であるため、本事業を実施する意味は大きい。今後、2～3年継続して事業を協働する事でノウハウが蓄積でき、自立が見込まれる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☒</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☒	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☒	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について 全10回講習会を行ったが、「あんふあんねつ」と講習内容を検討し、参加者が必要と思う情報や内容、開催時期等を適切に把握しながら事業を進めていく事で参加者増や、子育て世代の「防災力」を高めていく事が出来る。		(5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td></td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td></td></tr></table>		成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果																		
成果優先度評価結果																								
コスト削減優先度評価結果																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 単年度での協働事業では、子育て世代に防災を伝える事は出来ない。市では、子育て中の世代が必要と思う情報や内容の把握は難しいので、「あんふあんねつ」等の団体と協働事業を行う事で可能となる。2～3年事業を継続して行く事で、子育て世代の「防災力」を高めていく事が出来る。																								